

## 10年後を準備する



清水建設株式会社 技術研究所  
執行役員 所長  
石川 裕

東日本大震災からまもなく2年になります。昨年は復興予算が思わぬところに使われているといった批判もありましたが、一日も早い復興が望まれるところです。われわれとしても復興を後押しする技術の開発と展開に尽力していきたいと考えています。

私どもではecoBCP®の提案に力を入れています。平常時のeco（省エネ、節電）と災害時のBCP（事業継続）を別々に考えるのではなく、両者を併せ持った建物・施設・街区を構築しようとする概念です。昨年竣工した弊社新本社はecoBCP®を具現化した最新の建物となっています。

ecoを実現するための中心的な技術の一つは種々のエネルギーの最適制御を行うスマートBEMSですが、その前身としてのマイクログリッド技術の研究開発をスタートしたのはちょうど10年前でした。また、BCPの考え方が大きく注目されたのは2001年9月11日の米国の同時多発テロであり、それを契機に我々が勉強をはじめてからほぼ10年ということになります。大きな技術は、研究に着手してから社会に実践投入されるまでに早くても10年の歳月を必要とするのが一般的です。最近では世の中のスピードが早くなっており、研究開発の世界でも短中期の技術への関心が高くなりがちですが、大きな社会変化を見据えた上で、10年後を先取りするといつか、「10年後を準備する」のも研究開発部門の役割であると思います。

今回お届けする研究報告では、津波シミュレーション、非構造部材の耐震化技術、南海トラフ巨大地震の強震動予測などを取り上げております。いずれも東日本大震災で大きくクローズアップされた課題であり、その解決に資することを期待しております。他にも、コンクリートなどの材料関連技術、省エネルギーやエネルギーマネジメント技術、省エネをしながらも快適なオフィス環境の構築を目指すスマートワークプレイス技術など、多岐にわたる分野の研究開発成果を掲載しております。

本年は技術研究所に2棟の新しい実験施設が完成する運びになっております。ecoBCP®のみならず、建設技術のさらなる進化に向けて一層の研究開発を行っていく所存ですので、引き続きのご指導をよろしくお願い申し上げます。